

令和2年度鳥取市立世紀小学校評価(自己評価)

学校教育目標		めざす学校像	年間振り返り (☆成果指標)	評価	来年度に向けて	
<p><b>志はまっすぐ 心はまあるく</b></p>		Happy 安心して登校できる学校(居場所のある)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の影響で行事や活動が制限されたり、その対応に追われたりすることで、十分に目標が達成できていない面があるが、その中でも工夫して取り組むことができた行事や活動もあり、おおむね目標を達成することができた。</li> <li>・地域や地域の方との交流や学校公開が十分にできなかった。</li> <li>☆学校が楽しい(児) はい65.1%、肯定的回答91.3%</li> <li>☆世紀小学校の子どもは、明るく元気に育っている(保) はい38.2%、肯定的回答96.3%</li> <li>☆学校は保護者、地域の願いに応えようとしている(保) はい29.2%、肯定的回答94.7%</li> </ul>	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式の中で、目的やねらいを明確にして、活動を絞り中身の充実をはかる。</li> <li>・地域や保護者との協働、連携を模索し、できることを工夫して取り組む。</li> </ul>	
		Smile 笑顔のあふれる学校				
		世紀地区の中核 5公民館地区に広がる地域をつむぐ学校				
プロジェクト	取組の重点	具体的取組項目	具体的取組内容	年間振り返り(☆成果指標)	評価	来年度に向けて
<p>「志をもって新しい世紀」に向かう楽しさのある学校</p>	<p>「主体性」の育成 学校行事、児童会活動、学級活動の連動を通して</p>	○「楽校」に関わる行事や活動のふり返りをSファイル等に保存。	・各学年で相談しながら、状況や実態に合わせて	・今年度は行事等も少なく、キャリアパスポートと重複する内容もあるのでSファイルに 限らない形で振り返りの積み重ねをした。	○	<p>・年度初め、学期に一度ずつなど、必ず取り組むこと(よいこと見つけ、話し合い 活動の経験)を決めて、ポイント的に全体で取り組んでいく。</p>
		○学級活動(エンカウンター等)、係活動などで適宜互いのよさを認め合う場を設定。	・「よいことみつけ」の時間を日々の生活の中に設定。⇒アンケートより学級でのよいこと見つけを進めていく。全校単位だと自分へのメッセージも受け取りにくい。日直、ペア、グループ。今日は○○の日。⇒ハビスマの木とともに、学級で取り組んでいく。	・学級に応じて取り組んだ。「よいこと見つけ」として取り組みを始めたが、児童のみつけてほしい欲求が満たされ切れていない実態がある。(⇒ハビスマの木の取り組みの充実)		
		○学級活動の時間の充実を図っていく。	⇒今年度をスタートの年にする。意見を比べたり、おりあいをつけて話し合ったりする力が自覚力につながる。 ※話し合い活動の基本型・アイテム作成等	・話し合い活動アイテムの作成に留まり、アイテム活用までできなかった。年度内に少しでも取り組んでみたい学級があればアイテムを使ってもらおう。全体での取り組みは来年度へ。しっかり取り組むとハードルが上がる。高学年に向けて、基本形や進め方を少しずつ経験する気持ちで取り組んでいく。		
		○委員会活動、代表委員会の充実	⇒創造的な活動に型という方向で。各委員会でアイデアを出し、形にしていることで達成感を。			
<p>「ハビスマ」意識の向上 異学年・同学年のなかよし活動を通して</p>	<p>○児童アンケートの項目に「友達との関わり」について見取る具体的な項目を入れる。</p> <p>○ハビスマの木(よいことみつけの木)…いろいろな学年のよさ・がんばりを伝える場として</p> <p>○各委員会がなかよし班を活用した活動・イベントの工夫を図る。</p> <p>○掲示板の活用…担当を中心に運営。</p>	・短時間で、異学年の活動を ⇒学習時間の活用：音楽発表、朗読発表。	ハビスマの言葉を使っていくなら、年度初めや行事など事あるごとに「ハビスマ」の言葉が持つメッセージや具体的な姿について共有が必要ではないか。 ☆「ハビスマな学校になるように自分ができることは取り組もうとしている」の肯定的回答が、7月84.7%、12月88.4%	○	<p>・なかよし活動の充実が、ハビスマの木の異学年の児童へ関心を持つ機会になるのではないかと。児童集会に限らず、委員会活動でのなかよし班を活用したイベントの工夫につなげる。</p>	
		・月ごとにテーマをかえる。校内掲示の仕方をバージョンアップしていく。(友遊委員会)	委員会の児童が意欲的に活動し、メッセージが定期的に貼られる流れになりつつある。次のステップへつなげたい。内容や書かれる人(同学年、同学級から異学年へ)、掲示の仕方など、よさを見つけて合う活動に児童の気持ちに向いているフォローの仕方について考えていく必要がある。 ☆「友だちのよさをみつけている」の肯定的回答が、7月88.5%、12月86.1%			
		・学級、学年同士から他学年のつながりが出るような形に。(高学年を中心に。なかよし活動後など意識的に声かけ)	☆「友だちは、自分のよさをみつけてくれている」の肯定的回答が、7月81.3%、79.7%			
		⇒なかよし班を生かした全校遊び…6年生、友遊委員会を中心に	メンバー写真の掲示や月1回のなかよし活動など、今年度なりに取り組めた。 ☆「みんなて何かをするのは、楽しい」の肯定的回答が、7月95.1%、12月95.7%			
<p>「学び」の意義理解</p> <p>○キャリア教育を通して</p>	<p>○算数科の研究を通して</p>	・キャリアアートの活用 ・キャリア教育でつきたい力の確認	・今年度から始まったキャリアアートの活用が遅れがちになってしまった。やらなければいけないことはよく分かっているが、教師自身がその意義をしっかりと理解しきれない部分もあった。4月に世紀小のつきたい力の確認を職員研修で行ったが、それきりになっている。 ☆「授業に進んで取り組んでいる」の肯定的回答が7月93.1%、12月93.6%だが、「はい」の回答は、7月57%、12月54.6%	△ やや不十分	<p>・目指す姿をしっかりとイメージし、活動の取り組みの前に、つきたい力を児童に伝えておく。・日々の活動の中では忘れがちになってしまうため、研究とつなげる。</p> <p>・学校行事には、視点を入れたため立てる。</p>	
		・「学び合いによることばの力の育成」ともにやみ、ともに考える算数科の学習を通して →授業研究会(3回) 外部より指導助言を受ける	・『算数の学習が好き』の項目では、好きではないと答える児童が5年生で多い。「好き」と、「わかった、できた」のとどちらが曖昧になっているのかもわからない。			
		・「10のつなぎ方」を意識させる(ラミネートシートの配布)	・アンケートを全体的にみると、否定的意見が減っている。今までやってきた効果ととらえてよい。			
		・ホワイトボードの効果的な活用	☆「わたしは、授業中に友だちにたずねることができる」と、「はい」と回答7月57.9%、12月65.5%			
<p>「学び合い」力の獲得</p> <p>○算数科の研究を通して</p>	<p>○40分授業・午前5時間制を通して</p>	・「10のつなぎ方」を意識させる(ラミネートシートの配布)	・コロナ禍で、話し合いやグループでの活動が制限されていたが、少しずつ再開し、形もできつつある。	○	<p>・授業では、「わかる」で終わってしまうので、「できる」までもっていききたい。(スキルタイムの活用)</p> <p>・引き続き、小グループやペアでの活動を取り入れる。</p> <p>・「10のつなぎことば」を引き続き活用していく。言葉を知り、しゃべれるようになることで、意欲が増す。今年度のラミネートの形から、教室に貼れる掲示物の形にするのもよい。</p>	
		・「10のつなぎ方」を意識させる(ラミネートシートの配布)	・友達にたずねること、安心感を感じることができ、分らないことを、分らないと言える 関係が作れてきていると考えられる。 ☆『授業中に友だちにたずねることができる』の項目で、「はい」と答えた児童が、7月に比べて大きく増えた。(8%)			
		・ホワイトボードの効果的な活用	・アンケートを全体的にみると、否定的意見が減っている。今までやってきた効果ととらえてよい。			
		・「10のつなぎ方」を意識させる(ラミネートシートの配布)	☆「わたしは、授業中に友だちにたずねることができる」と、「はい」と回答7月57.9%、12月65.5%			
<p>「集中」力の向上</p> <p>○スキルタイム・家庭学習の工夫を通して</p>	<p>○スキルタイム・家庭学習の工夫を通して</p>	・40分授業の構成(授業研究会)	・「学び合う」「話し合う」学習は時間がかかるため、40分授業では時間がたりず、物足りない学習になってしまった。	○	<p>・学習の内容によっては、2時間続きで行うなど、達成感に繋げる。</p> <p>・研究とも絡めて、単元の計画を立てる。</p>	
		・40分授業ということ、今まで時間をかけすぎた部分をできるだけ絞るよう意識することで、すっきりとした学習の展開をすることができた。	・スケジュールをはっきり示し、自分たちで守る環境づくりに努めた。時計を見る習慣も身につけてきた。			
		☆「午前中5時間40分学習は、集中して取り組める」の肯定的回答が7月87%、12月88%	・引き続き、スキルタイムは国語、算数を中心に行う。			
		・「午前中5時間40分学習は、集中して取り組める」の肯定的回答が7月87%、12月88%	・児童によっては、取り組むスピードに差があるので、できる子への手立ても必要。児童のモチベーションを下げない工夫も。(前期)			
<p>「基礎」学力の定着</p> <p>○スキルタイム・家庭学習の工夫を通して</p>	<p>○スキルタイム・家庭学習の工夫を通して</p>	・40分授業の構成(授業研究会)	・スケジュールをはっきり示し、自分たちで守る環境づくりに努めた。時計を見る習慣も身につけてきた。	○	<p>・スキルタイムを、クラスごとに習熟別に行い、できる児童をしっかりと伸ばしていく。</p> <p>・タブレットの活用。(どういう場面で、どう使うか検討する。)</p>	
		・40分授業ということ、今まで時間をかけすぎた部分をできるだけ絞るよう意識することで、すっきりとした学習の展開をすることができた。	・児童によっては、取り組むスピードに差があるので、できる子への手立ても必要。児童のモチベーションを下げない工夫も。(前期)			
		☆「午前中5時間40分学習は、集中して取り組める」の肯定的回答が7月87%、12月88%	・家庭学習を予習型にするのは、難しいが、方法を考えて取り組んでいきたい。			
		・「午前中5時間40分学習は、集中して取り組める」の肯定的回答が7月87%、12月88%	・スキルタイムを活用することはおおむねできた。			
<p>「基礎」学力の定着</p> <p>○スキルタイム・家庭学習の工夫を通して</p>	<p>○スキルタイム・家庭学習の工夫を通して</p>	・40分授業の構成(授業研究会)	・スケジュールをはっきり示し、自分たちで守る環境づくりに努めた。時計を見る習慣も身につけてきた。	○	<p>・スキルタイムを、クラスごとに習熟別に行い、できる児童をしっかりと伸ばしていく。</p> <p>・タブレットの活用。(どういう場面で、どう使うか検討する。)</p>	
		・40分授業ということ、今まで時間をかけすぎた部分をできるだけ絞るよう意識することで、すっきりとした学習の展開をすることができた。	・児童によっては、取り組むスピードに差があるので、できる子への手立ても必要。児童のモチベーションを下げない工夫も。(前期)			
		☆「午前中5時間40分学習は、集中して取り組める」の肯定的回答が7月87%、12月88%	・家庭学習を予習型にするのは、難しいが、方法を考えて取り組んでいきたい。			
		・「午前中5時間40分学習は、集中して取り組める」の肯定的回答が7月87%、12月88%	・スキルタイムを活用することはおおむねできた。			

プロジェクト	取組の重点	具体的取組項目	具体的取組内容	年間振り返り(☆成果指標)	評価	来年度に向けて
全校 「やさしさ」の涵養を 通い合わせる番 びのある学校	自己有用 感の育成	○今月のめあての設定と振り返り	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童会の月の目標とリンクさせることにより、個を生かす「集団（全体）意識の向上を図る。</li> <li>・めあてに向かって、どう取り組むかを個別に短冊に書くようにし、廊下に掲示し意識つける。2週目の百マス作文で中間の振り返りを行い、月末の振り返りは、Sファイルに閉じていく。</li> <li>※児童会の今月の生活目標と教員からの声掛けにずれがないよう、意識して取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に向かい、前向きに取り組む児童の姿が多く見られた。</li> <li>☆「自分のめあてを守って生活しようとしている」の肯定的回答が7月92.4%、12月94.7%</li> </ul>	○ おお ね 順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度も継続する。</li> <li>・アンケートの中に子どものやる気を計る項目を入れる方がよい。（委員会・係活動の項目をこれに当てても良いかも）</li> </ul>
		○全校朝会での啓発コーナーの設定（生徒指導、道徳、人権教育担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣や、望ましい人間関係の醸成等に関する具体的な行動や取り組みについて、児童への全体的な意識付けのために、全校朝会に5分程度のコーナーを設定する。</li> <li>・教師からの話だけでなく、「ことば」や「もくもくそうじ」などについては、児童会活動とタイアップすることも考える。</li> <li>・9月は「あいさつ」について、高草中学校区の取り組みともリンクさせた話を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校集会を持ちにくい状況が続いたが、昼の校内放送を利用して呼びかけをするなどして取り組んだ。</li> <li>・本年度は、コロナのこともあり、うやむやに終わってしまった。</li> <li>★「時間いっぱい、しゃべらずもくもく掃除をしている」の肯定的回答が7月87.3%、12月82.8%</li> <li>☆「地域の人やお客さま、友だちに元気なあいさつをしている」の肯定的回答が、7月87.9%、12月90.5%</li> <li>☆「ありがとう」や「ごめんなさい」を友だちに言っている」の肯定的回答が、7月87.9%、12月94.4%</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・今月の生活目標とは切り離し、年度当初に計画を立て、全校朝会で「先生からのお話コーナー」を必ず持つようにする。（3分てよい）同じ話を児童も教員も一緒に聞き、学校全体で足並みを揃えて、児童に声をかけていくことが必要ではなかったか。</li> </ul>
	「やさしさ」の涵養	○学級の中で児童の心の変容を丁寧に 見取る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習の記録（板書）を残す。道徳ファイルにワークシートや振り返りを閉じていく。（道徳科）</li> <li>・学習や生活の中での子どもの変容を日々の記録に残しておく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉遣いが気になる児童が多い。アンケート項目でも、「ていねいな言葉遣いをしている」は、自己評価が低い。</li> <li>★「友達をバカにしたり、傷つけたりしていない」の項目も、7月より12月の方が自己評価が低くなっている。肯定的回答が、7月93.3%、12月89.2%</li> <li>★「ていねいな言葉遣いをしている」の肯定的回答は、7月83%、12月82.8%</li> </ul>	△ や や 不 十 分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全校朝会の「先生のお話コーナー」で子ども達に教員の思いを伝えていく。</li> </ul>
	「相談活動」の充実	○児童対応の共通理解 （CO教員、特別支援教育担当、不登校担当）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童対応の確認のための時間を必要に応じて終礼に設定する。（5月は、特別に枠を取る。）</li> <li>・支援や配慮を要する児童への、日々の教師の言葉かけや働きかけについて共通理解を図る。（顔写真と要点を簡易書きに）</li> <li>※いきいきアンケートの実施…小さな訴えを見逃さない。</li> <li>スマイル月間・・・児童の個別面談（スキルタイム）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜、支援の必要な児童のケース会議を持つことができた。→休校や分散登校、コロナ対応のための規制により学級経営や子どもへの指導が十分にできていないのではないか、と年度当初担任が不安に感じる事が多く、チームで集まって話すことは有効だった。児童に関わる教員が集まって支援を考える短時間のミニ支援会議を必要なときにもあった。機動力が勝負の本校には、このやり方が合っている。</li> <li>・担任からの報告・相談がスムーズになり、短時間の支援会議を持つことで、迅速な対応をすることができた。</li> <li>・夏休みまでに2回児童理解の場を持つことができたが、支援の必要な児童への共通理解の場は、短時間でももう少しあったほうが良い。</li> <li>・担任の相談活動（個別面談）については、中高学年は、全クラス実施できた。低学年は、全員の実施ではなく抽出児のみの実施となったが、児童理解には有効な取組だった。</li> </ul>	○ おお ね 順調	<ul style="list-style-type: none"> <li>・終礼で児童理解の時間を必ず取る。勤務の割り振りを調整し、支援員の先生方も参加していただく。</li> <li>・前期・後期に1回ずつ、担任の相談活動を学級で行う。日程を調整し、必ず実施できるようにする。子どもの声を聞くことが必要である。</li> </ul>
○不適応や支援を要する児童への対応の 共通理解と引継ぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクリーニングを年間3回行う。作業日を研修として設定する。（5月、10月、1月引継ぎ資料としても活用する）</li> <li>・スクリーニング会議をし、ケース会議を適宜行う。また、ミニケース会議をその都度行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○SCによるアサーショントレーニングの学習</li> <li>・本年度は2年生で石本先生によるアサーションの学習を実施した。継続することで、子ども達も少しずつ意識できるようになった。</li> <li>☆「学校の先生は、わたしのことをわかってくれている」の肯定的回答は、7月91.2%、12月93.3%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルールを視覚化し、児童と職員が意識できるようにする。</li> </ul>			
○不適応解消のための生活リズム チェック（養護教諭を中心に中学校区 で）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不適応の未然防止に資する活動として、睡眠、朝食についてのチェックを、長期休業明けの1週間行う。全校共通のチェックシートを用いる。</li> <li>※気になる児童には、個別指導を行ったうえで、個人懇談での保護者への説明資料として活用する。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・来年度は、他学年にも広げたり、学級活動に取り入れたりすることを考えていく。</li> </ul>			
○安心して学校づくりのため児童への 生活指導の基本線をそろえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムリーな指導、指導の足並みをそろえるため子どもへの指導事項の共通理解を図る。（C4THを活用する。）</li> <li>・がんばり強化週間の実施</li> <li>※がんばり強化週間の取組が、児童会の生活目標とリンクするようにする。</li> </ul>					